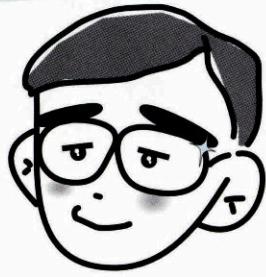


ながと日記 ば-と23

長門市長 松林正俊



古窯

湯本・三ノ瀬は、萩焼の里です。山あいの静かな佇まいのこの地には、一六五七年の三ノ瀬焼物所の創業以来続く、萩焼深川窯の歴史が刻まれています。

萩焼の開祖・李勺光の弟子・蔵崎五郎左衛門が藩主より独立開窯を許され、大寧寺の山林をまき山として認められ三ノ瀬に移住したのが始まりですが、その後三五〇年に及び當々と受け継がれて今日に至っています。

この深川萩焼の歴史を語るものとして古窯があります。少し山中

に入りますが、東の新窯、西の窯本窯と呼ばれるいずれも上部構造の残っている古窯があります。山の斜面を利用した連房式の登り窯ですが、江戸初期に朝鮮半島より導入された技術によるもので、上部構造を残しているのは稀少だと言われています。「天秤」と呼ばれる、窯入れのときに作品を積み置き道具がありますが、その破片を積み上げ、それを粘土で固めて上部構造が築かれており、この構造は他に例を見ないそうです。歴史的遺産としてだけでなく、当時の築窯技術を研究する上でも貴重な遺跡であるわけです。

その中でも最も残存状況の良い本窯の保存作業が、この度本格的に始まりました。12連房からなるこの窯は近世の窯の中でも最大規模のもので、樹木に囲まれて佇むその姿は昔日の面影を残し、訪れる人に安らぎを与えてくれます。

このように、三ノ瀬古窯が幸いにも残存できたのは、山あいの立地条件によるもので、このことは、そのまま三ノ瀬という茶の湯の里の佇まいを残す条件にもなりました。茶と陶芸文化の香りを漂わす、その雰囲気と環境をしっかりと守りながら、歴史と一体化した今な



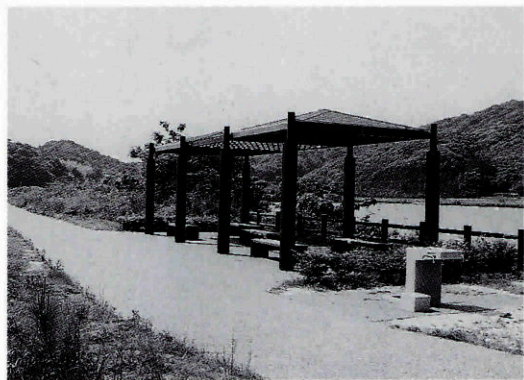
萩焼深川古窯・本窯跡（平成14年2月撮影）

お生き続ける文化を観光につなげることも、長門市の観光行政の一つの方向であろうと思う次第であります。

県宮海岸環境整備事業竣工式 「波の橋立」の遊歩道が完成

県宮事業として、青海湖周辺で進められていた海岸環境整備事業が完成し、5月15日、青海湖地区集落センターで県、市、地元関係者などが出席して竣工式が開催されました。

この事業は、平成8年度から6年間の歳月を経て完成したもので、総事業費は2億9千4百万円。波の橋立の景観などに配慮した遊歩道やシャワー設備付きの公衆トイレ、青海湖の植門などが整備されました。



長門地区暴力追放運動協議会総会

5月16日、物産観光センターにおいて平成14年度長門地区暴力追放運動協議会総会が開催され、長門市と大津郡3町から約70人の会員が出席しました。

会長の松林市長から「明るく住みよい郷土づくりのため、官民一体となって暴力追放運動を推進しましょう」とあいさつ。

講演では、長門警察署の松田正弘刑事生活安全課長による「暴力団情勢と対応について」をテーマに講話がありました。

